

DIVER'S

No. 6

令和8年(2026年)
2月22日(日)発行

—学校図書館で本と出会い、未知なる世界に飛び込もう!—

2月7日(土)、本の森ちゅうおう1階多目的ホールにて、区内中学校5校の2学年代表バトラーによる「第4回ビブリオバトル本森カップ～区立中学校対抗戦～」が行われました。

今号では本森カップ本選に向けて行われた、校内決勝戦の様子と併せて、各校決勝戦に勝ち残った本をご紹介します。(★はチャンプ本です。)

校内決勝戦 ビブリオバトル

ことば、響く。



晴海西中学校

- 『魔球』
東野圭吾 著 講談社
- ★ 『アリス殺し』
小林泰三 著 東京創元社
- 『どうしてわたしはあの子じゃないの』
寺地はるな 著 双葉社
- 『ツナグ』
辻村深月 著 新潮社



晴海中学校

- 『ラン』
森絵都 著 理論社
- 『きみはスゴイぜ! 一生使える「自信」をつくる本』
マッシュー・サイド 著 竹中てる実 訳 飛鳥新社
- ★ 『君のクイズ』
小川哲 著 朝日新聞出版



日本橋中学校

- 『N』
道尾秀介 著 集英社
- 『人間椅子』
江戸川乱歩 著 角川書店
- 『星くずの殺人』
桃野雑派 著 講談社
- ★ 『そして誰もいなくなった』
アガサ・クリスティー 著 青木久恵 訳 早川書房



銀座中学校

- 『アルジャーノンに花束を』
ダニエル・キイス 著 小尾美佐 訳 早川書房
- ★ 『死んだ山田と教室』
金子玲介 著 講談社
- 『ベッパーズ・ゴースト』
伊坂幸太郎 著 朝日新聞出版



佃中学校

- ★ 『舟を編む』
三浦しをん 著 光文社
- 『変身』
東野圭吾 著 講談社
- 『バッテリー』
あさのあつこ 作 KADOKAWA
- 『みんな蛍を殺したかった』
木爾チレン 著 二見書房

各校で、班予選、クラス予選を勝ち抜いたバトラーが、学校代表を決める校内決勝戦に臨みました。ビブリオバトルのキャッチコピー「人を通して本を知る。本を通して人を知る」の通り、バトラーそれぞれの切り口で、5分間、熱く本を紹介しました。ディスカッションタイムには、本にまつわるエピソードや登場人物の相関関係など、参加者からさまざまな質問が上がりました。

そして、本森カップ本選では、代表バトラーの発表後、「1番読みたくなった本」について観戦者による投票を行った結果、佃中学校がチャンプ本となりました。
佃中学校、高木紀里さん、おめでとうございます!!
今回ご紹介した本は、区立図書館で貸出ができるため、区立図書館にぜひ足を運んでみてください。

銀座 中学校

銀座中学校の学校図書館について、
学校司書がご紹介します！



銀座中学校の図書館は、今年度の冬休みに2階から3階に移設されました。ナチュラルな木目調の書棚に囲まれた新しい図書館は明るく、心地よく過ごすことができます。



昼休みは生徒で賑わいます。図書委員は受付、人数確認、館内整備、書架整理の担当に分かれ、それぞれが責任を持って役割をこなします。また、選書のヒントになるおすすめの本のカード作成、どんな本と出会えるか楽しみな本の福袋の企画、図書館の活動を伝える「LibraryNews」の発行など、図書委員会は活発に活動しています。



2学期の学習発表会では、ビブリオバトル校内決勝戦も行われました。生徒や保護者の方など、多くの観覧者へ本への思いを伝えることができました。紹介した本は図書館で展示し、本をきっかけにして生徒同士の読書交流が生まれています。



この他、国語科、社会科、家庭科など、さまざまな教科でも図書館の利用があります。生徒にとって図書館は学習、読書、交流、安らぎの場となっています。

図書館や本屋さんの棚には、物語以外にも「現実の世界」を舞台にした面白い本がたくさん眠っています。それが「ノンフィクション」や「実用書」です。これらの本は、私たちが生きているこの世界をもっと面白く、便利にするための「知恵の結晶」が詰まっていると思っっています。でも、こうした本を読むとき、

皆さんは、普段どんな本を読みますか？ハラハラする冒険物語や、胸が熱くなる小説。物語の世界に没頭するのは最高に楽しい時間ですよね。でも、もし物語の棚だけで満足しているなら、それは少しもったいないかもしれません。

PRINCIPAL'S COLUMN RELAY

校長先生コラムリレー



晴海西中学校 校長
齊藤光司 先生

RECOMMENDED BOOK



書名 | 『伝わらない』がなくなる
数学的に考える力をつける本
著者 | 深沢真太郎
出版社 | 講談社

一文字残らず丁寧に読むことは苦痛に感じてしまう人もいると思います。まずはパラパラとページをめくる「斜め読み」から始めてみてください。「こ、面白そう!」と思った図解や写真、キャッチコピーに目が止まるだけでも十分です。そこには、物語の中だけでは出会えなかった「新しい発見」や「意外な事実」が隠れています。

私の紹介する本は『伝わらない』がなくなる 数学的に考える力をつける本です。数学を教えていたこともあり、数学関連の本を手取るに役立つこと、数学があるからできるようになったことなどを生徒たちに紹介し、数学への興味・関心を高めていきたいという思いから読んでいました。この本の筆者は、「数学とはコトバの学問である。」と書いています。他にも「カレーだって数学的に作れる」や「足し算はニラレバ妙めである」など興味がわく内容がたくさん書かれています。難しい数学の話も少ないので、読みやすいと思います。ぜひ、手に取ってパラパラと「斜め読み」をしてみてください。数学に対する見方がこれまでと少し変わってくると思います。

